

## 4 地域住民との協働による検討手法

地域住民と行政との協働により支援策の実施を進めていくために、災害時要援護者の避難支援の検討段階からの地域住民の参画が重要です。そこで、ここでは、地域住民との協働による検討手法について整理します。表 7に示すように、協働による検討手法には、ワークショップやシンポジウム、説明会など様々なものがありますが、それぞれ検討すべき課題と支援策の内容に応じて使い分けることが肝要です。

これらの手法の中では、ワークショップ方式は参加者全員が主体的に議論に参加できるものであり、地域住民の参画による支援策の実施に特に結びつきやすいと考えられるので、その実施方法について次節で述べます。

表 7 地域住民等との協議手法例

協議手法の内容	参加者・対象者	長 所	短 所
<p><b>&lt;ワークショップ&gt;</b> 進行役(ファシリテーター)によって一定時間に区切りられた中、6～8人でグループを作り1グループ1テーマで議論を行う。テーマごとに進行役、補助員を配置し、参加者の意見を促す。</p>	<p>地域住民 災害時要援護者 関連機関の代表者 行政職等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員の意見が収集出来る</li> <li>テーマが多い場合はテーマ毎でテーマを変えて議論することが可能</li> <li>様々な属性の参加者による多種多様な協議が可能</li> <li>課題の抽出や支援策の選定といった意見のとりまとめが可能</li> <li>参加者全員が同じ場を共有することで意識が高まる</li> <li>浸水特性等の地域特性を把握することが可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者やグループピングによっては意見が発散する可能性がある</li> <li>意見がローカルな内容に偏ることがある</li> <li>経験がある進行役が必要</li> <li>施策の選定等については複数回の実施が望ましい</li> </ul>
<p><b>&lt;シンポジウム&gt;</b> 各参加者の代表者(例えば要援護者の家族代表、消防団代表等)5人程度でパネラーとして議論して頂く。それに対する意見をその他の参加者から頂く。議論・意見の進行は司会(コーディネーター)が行う。</p>	<p>地域住民 災害時要援護者 関連機関の代表者等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者全員が同じ場を共有することで意識が高まる</li> <li>参加者の代表者がパネラーとなることで意見を出しやすい雰囲気となる</li> <li>情報提供として、体験談や事例紹介等の意識啓発を兼ねることが出来る</li> <li>参加者全員が同じ場を共有することで意識が高まる</li> <li>説明会方式でこれまでの検討会議の内容を全体を説明・議論出来る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パネラーの選定</li> <li>時間的制限によりテーマが限られる</li> <li>具体的な施策の選定等は難しい</li> <li>参加者全員の意見を集約することは難しい</li> </ul>
<p><b>&lt;説明会&gt;</b> 全員でこれまでの整理・調査結果等を進行役または説明者から説明を受け、それに対して意見を頂く。</p>	<p>地域住民 災害時要援護者 関連機関の代表者等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際の体験することによって新たな課題や支援策のアイデアを出すこと出来る</li> <li>参加者全員が同じ場を共有することで意識が高まる</li> <li>説明会方式でこれまでの検討会議の内容を全体を説明・議論出来る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた参加者の意見が結果となる(発言しない参加者が発生)</li> <li>参加者全員の意見を集約することは難しい</li> <li>行政と住民の対立の構図となりやすい</li> </ul>
<p><b>&lt;避難等の体験会&gt;</b> テーマに沿った形で参加者で体験的に避難行動(避難所までを歩き、避難所の機能等を確認する等)を実施し、地域における問題点や支援策を感想等で考える。</p>	<p>地域住民 災害時要援護者 関連機関の代表者等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの整理・検討内容と異なる内容についての議論となる</li> <li>時間的な余裕が必要</li> <li>綿密な計画が必要</li> <li>経験がある進行役が必要</li> <li>具体的な施策の選定等は難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの整理・検討内容と異なる内容についての議論となる</li> <li>時間的な余裕が必要</li> <li>綿密な計画が必要</li> <li>経験がある進行役が必要</li> <li>具体的な施策の選定等は難しい</li> </ul>
<p><b>&lt;フリートーク&gt;</b> ひとつの円を中心に決めて決まったテーマについて全員で進行役が発言を調整し、意見交換(フリートーク)を行う(全員発言を原則)。補助員による意見の記録等が必要。</p>	<p>地域住民 災害時要援護者 関連機関の代表者 行政職等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者全員が同じ場を共有することで意識が高まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマが限定されたり、意見が発散する可能性がある</li> <li>これまでの整理・検討内容と異なる内容についての議論となる</li> </ul>
<p><b>&lt;ヒアリング調査&gt;</b> 調査員が個別の課題や支援策に係る関係者や災害時要援護者に対して詳細にヒアリング調査を行う。</p>	<p>地域住民 (自治会・消防団等) 災害時要援護者 関連機関の代表者等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別のテーマについて詳細な意見を収集できる</li> <li>意見が発散することはない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンプル数によって意見の偏りが懸念される</li> <li>時間、費用による制限がある</li> </ul>